

# 概況調査結果評価一覧表

本表は、〃、△、×の4段階評価とする。凡例を以下に示す。  
 〃：特に大きな問題がない。  
 △：問題はあるが、大して大きな障害とならない。  
 ×：解決に大きな労力がかかるが対応可能である。  
 -：評価対象外。

評価項目		明野 2	明野 7	明野 8	現計画地
(1) 法規制該当事項及びその対応		・ 法規制はあるが、対応可能な範囲である。	・ 法規制はあるが、対応可能な範囲である。	・ 法規制はあるが、対応可能な範囲である。	・ 法規制はあるが、許可取得済みである。 ・ 埋蔵文化財については、届出により対応可能な範囲である。
(2) 土地利用		・ 公共公益施設は半径 1km圏内になく、また、北側 500mに集落があるが、搬入ルートが通過していないため、特に影響はないと考えられる。	・ 公共公益施設及びレクリエーション施設が半径 1km圏内にあるが、搬入ルートが直近を通過していないため、特に影響はないと考えられる。	・ 公共公益施設及びレクリエーション施設が半径 1km圏内にあるが、搬入ルートが直近を通過していないため、特に影響はないと考えられる。	・ 公共公益施設及びレクリエーション施設が半径 1km圏内にあるが、搬入ルートが直近を通過していないため、特に影響はないと考えられる。
(3) 水象		・ 施設からの処理水については基準以下で放流するが、候補地下流の正楽寺川に利水施設（農業用取水堰）があり、これらの施設に対する水利権の対応が必要となる可能性がある。	・ 施設からの処理水については基準以下で放流するが、候補地下流の鰻沢が利水施設（取水堰）と平面交叉しており、処理水の塩川への直接放流等の対応が必要となる可能性がある。 ・ 施設には 2 重シート等の遮水施設を設置することを前提としているが、候補地から 1km圏内に、現在も使用している井戸が存在しており、代替上水の確保等の対応が必要となる可能性がある。	・ 施設からの処理水については基準以下で放流するが、候補地下流の鰻沢が利水施設（取水堰）と平面交叉しており、処理水の塩川への直接放流等の対応が必要となる可能性がある。 ・ 施設には 2 重シート等の遮水施設を設置することを前提としているが、候補地から 1km圏内に、現在も使用している井戸が存在しており、代替上水の確保等の対応が必要となる可能性がある。	・ 浸出水処理施設からの処理水は、調整池を経由し、湯沢川に直接放流する計画である。
(4) 生態系 本評価は、文献調査及び短期間の現地調査に基づくものであり、今後詳細な調査を行った場合、評価が異なる場合がある。		- 動物の生息場としての重要性が明野 2・7・8 の 3地区の中で 7地区に次ぐ地区である。	- 動物の生息場としての重要性が明野 2・7・8 の 3地区の中で最も高い地区である。	- 動物の生息場としての重要性が明野 2・7・8 の 3地区の中で最も低い地区である。	- 動物の生息場として良い環境が谷沿いを中心にみられる。
(5) 地質状況		・ 地質条件の良い地点である。	・ 地質条件が比較的良好な地点である。	・ 地質条件の低い地点である。	・ 地質条件の良い地点である。
(6) 施設の概要及び機能性		・ 所定の廃棄物量を埋立てることが可能である。 ・ 搬入道路の整備が必要である。 ・ 覆土仮置場を同一敷地内に配置できず、施設配置は相対的に劣る。	・ 所定の廃棄物量を埋立てることが可能である。 ・ 搬入道路の整備が必要である。 ・ 施設配置は相対的に良いが、大規模な雨水調整池が必要となる。	・ 所定の廃棄物量を埋立てることが可能である。 ・ 搬入道路の整備が必要である。 ・ 施設配置は相対的に良い。	・ 所定の廃棄物量を埋立てることが可能である。
(7) 地盤の安定性		・ 地盤の安定性は高いと評価できる。	・ 不等沈下及び土石流の発生が懸念され、地盤の安定性は低いと考えられる。	・ 不等沈下及び土石流の発生が懸念され、地盤の安定性は低いと考えられる。	・ 地盤の安定性は高いと評価できる。
(8) 施工性		・ 掘削土工量が多く、候補地内の既存構造物についても留意する必要がある。 ・ 工事用道路の整備が必要で、また資材置場等の確保が難しい。	・ 掘削土工量は少ないが、巨礫まじり土砂に留意する必要がある。	・ 掘削土工量が多く、巨礫まじり土砂に留意する必要がある。	・ 掘削土工量は多く、残土搬出に留意する必要があるが、その他の条件は特にない。
(9) 跡地利用性		・ 周辺は山林であり、有効な跡地利用方法がない。	・ 近隣にはレクリエーション施設があり、複合的な跡地利用の可能性はある。	・ 近隣にはレクリエーション施設があり、複合的な跡地利用の可能性はある。	・ 近隣にレクリエーション施設があり、複合的な跡地利用の可能性はある。
(10) 経済性	概算工事費 (カッコ内は m <sup>3</sup> 単価)	62.4 億円 (20,600 円)	53.4 億円 (17,600 円)	57.3 億円 (18,900 円)	56.5 億円 (18,600 円)
	推定総工事費( + 他の候補地と比較して、特異な工事費) (カッコ内は m <sup>3</sup> 単価)	62.6 億円 (20,600 円)	62.1 億円 (20,500 円)	76.4 億円 (25,200 円)	56.5 億円 (18,600 円)
	推定総工事費( + 関係機関等との協議によって発生する可能性のある工事費)	62.9 億円 (20,700 円)	鰻沢に放流する場合 62.3 億円 (20,500 円)	鰻沢に放流する場合 76.5 億円 (25,200 円)	56.5 億円 (18,600 円)
			塩川に放流する場合 63.3 億円 (20,900 円)	塩川に放流する場合 77.6 億円 (25,600 円)	

工事費の算定にあたり、処分場本体、覆土仮置場、搬入道路等の用地の取得若しくは借用に係る費用については、不確定要素があることから考慮していない

# 概況調査結果の整理及び評価

本表は、〃、△、×の4段階評価とする。凡例を以下に示す。  
 〃：特に大きな問題がない。  
 △：問題はあるが、大して大きな障害とならない。  
 ×：解決に大きな労力がかかるが対応可能である。  
 -：評価対象外

評価項目	明野 2	明野 7	明野 8	現計画地	
(1) 法規制該当事項及びその対応	農地転用	・ 指定されていない。	・ 指定されていない。	・ 西側下流端及び調整池が農用地区域に隣接もしくは一部指定されている可能性がある。 農用地を候補地から外す必要がないのであれば、おおよそ 1ha未滿の農地転用であり、長期の手続きを必要としないため、現状の計画でも大きな障害とはならないものと考えられる。	・ 最終処分場の一部及び覆土仮置き場が農用地区域に指定されている。 「農地法第 5 条の規程による許可申請書」を提出、許可取得済みである。
	林地開発	・ 候補地全域が地域森林計画対象民有林に指定。 開発面積が 1ha を超えており、開発にあたっては、県知事の許可が必要となる。設計上の対応としては、防災調整池の設置、残置森林の設定が必要となる。	・ 候補地全域が地域森林計画対象民有林に指定。 開発面積が 1ha を超えており、開発にあたっては、県知事の許可が必要となる。設計上の対応としては、防災調整池の設置、残置森林の設定が必要となる。	・ 候補地全域が地域森林計画対象民有林に指定。 開発面積が 1ha を超えており、開発にあたっては、県知事の許可が必要となる。設計上の対応としては、防災調整池の設置、残置森林の設定が必要となる。	・ 地域森林計画対象民有林に指定。開発許可が必要である。 「林地開発許可申請書」を提出、許可取得済みである。
	その他	・ 特になし。	・ 搬入ルートが埋蔵文化財包蔵地にかかる。 土木工事による発掘については文化庁長官に届出、通知が必要となる。	・ 搬入ルートが埋蔵文化財包蔵地にかかる。 土木工事による発掘については文化庁長官に届出、通知が必要となる。	・ 直下下流域は土石流危険渓流に指定。 上流側から流入してくる土砂の流入防止のため、上流側防災ダムを設置。 ・ 処分場下流部の一部が砂防指定地に指定。 砂防指定地内行為(砂防設備占用)許可申請書を提出、許可取得済み ・ 計画地内の一部が埋蔵文化財包蔵地にかかる。 土木工事による発掘については文化庁長官に届出、通知が必要となる。
	【評価】	・ 法規制はあるが、対応可能な範囲である。	・ 法規制はあるが、対応可能な範囲である。	・ 法規制はあるが、対応可能な範囲である。	・ 法規制はあるが、許可取得済みである。 ・ 埋蔵文化財については、届出により対応可能な範囲である。
(2) 土地利用	候補地内の現況	・ 候補地は北東から南西に流下する沢地形をなしており、現況では山林で樹林地の手入れも悪いことから、特に有効な土地利用がされている状態には無いと言える。 ・ 下流部から約 150m上流側に東京電力の高圧線(江草線)が横断しており、右岸及び左岸の尾根に鉄塔がある。鉄塔の高さは 22mである。	・ 候補地は東から西に沢地形を形成しており、現況山林である。 ・ 現地確認の際、オートバイのタイヤが散乱し、また木々には「矢印」や「SPEED DOWN」等の看板が掲げられていた。 候補地内には、「光の楽園」時代にバギーコースになっていた小径が見られ、かつ新しいオートバイのタイヤ跡が見られることから、オフロードバイクが乗り入れている可能性がある。	・ 候補地は緩やかな傾斜地形であり、草花が生い茂る草原の様相を呈している。同地は、テーマパーク「光の楽園」の跡地であるが、現在は、廃屋が 2 軒残されている状況であり、特に有効な土地利用はなされていない。	・ 候補地の上流及び南の緩傾斜な平坦部には畑、桑畑等が存在する。 ・ 広域農道に近接している。
	周辺土地利用	・ 候補地の北側約 500m付近には、集落及び田畑がある。 ・ 約 1.5km西側に老人憩いの家がある。 ・ 約 2.1km南東に穂坂小学校、穂坂幼稚園がある。 ・ 候補地から 1km圏内にレクリエーション施設はない。	・ 約 600m南側に東大宇宙線研究所がある。 ・ 約 1.0km南側に東大宇宙線観測所がある。 ・ 約 1.2km南側に生活環境改善センターがある。 ・ 候補地から 1km圏内に明野ふれあいの里がある。	・ 約 700m南側に東大宇宙線研究所がある。 ・ 約 1.1km南側に東大宇宙線観測所がある。 ・ 約 1.4km南側に生活環境改善センターがある。 ・ 候補地から 1km圏内に明野ふれあいの里がある。	・ 候補地から 1km圏内に以下の施設がある。 約 500m南東側に東大宇宙線研究所がある。 約 700m南東側に東大宇宙線観測所がある。 約 900m南側に生活環境改善センターがある。 ・ 候補地から 1km圏内に明野ひまわり畑がある。
	将来土地利用計画等	・ 特になし。	・ 特になし。	・ 特になし。	・ 特になし。
	【評価】	・ 公共公益施設は半径 1km 圏内になく、また、北側 500m に集落があるが、搬入ルートが通過していないため、特に影響はないと考えられる。	・ 公共公益施設及びレクリエーション施設が半径 1km 圏内にあるが、搬入ルートが直近を通過していないため、特に影響はないと考えられる。	・ 公共公益施設及びレクリエーション施設が半径 1km 圏内にあるが、搬入ルートが直近を通過していないため、特に影響はないと考えられる。	・ 公共公益施設及びレクリエーション施設が半径 1km 圏内にあるが、搬入ルートが直近を通過していないため、特に影響はないと考えられる。

評価項目		明野 2	明野 7	明野 8	現計画地
(3) 水象	利水状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>候補地から最も近い水源（小笠原水源）までの距離は約 1.5kmである。</li> <li>「山梨県利水現況図(昭和 41 年 2 月 山梨県)」によると、候補地下流の正楽寺川は、処理水放流点から塩川合流点までの間に 4 箇所の農業用取水堰がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>候補地から最も近い水源（永井原水源）までの距離は約 2kmである。</li> <li>「水と先人の知恵（平成 11 年 3 月 明野村文化協会郷土研究部編集）」によると、処理水を放流する鰻沢は、処理水放流点から塩川合流点までの間で、朝穂堰（用水路）と平面交叉する。</li> </ul>	同左	<ul style="list-style-type: none"> <li>現計画地から最も近い水源（浅尾原水源）までの距離は約 1.4kmである。</li> <li>「水と先人の知恵」（平成 11 年 3 月 明野村文化協会郷土研究部編集）によると、現計画地下流の湯沢川には処理水放流地点から塩川合流点までの間で、朝穂堰、両村堰（用水路）と立体交叉する。また、両村堰との立体交叉の北側で、横堰の取水が行われている。</li> </ul>
	井戸等分布状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>候補地から 1km圏内に井戸はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>候補地から 1km圏内に井戸が 2 箇所ある。</li> <li>旧明野村資料「滞在型宿泊施設（オートキャンプ場）における飲用自家水道井戸ポンプの設置について」によると、1km圏内にある井戸のうち、現在使用している井戸（明野ふれあいの里）は候補地に対して地下水流動方向の上流側にあたる。</li> <li>上記資料は、一時期の結果に基づくものであり、今後、必要候補地周辺の地下水流動を把握するための詳細な調査が必要と考える。</li> </ul>	同左	<ul style="list-style-type: none"> <li>候補地から 1km圏内に井戸はない。</li> </ul>
	【評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設からの処理水については基準以下で放流するが、候補地下流の正楽寺川に利水施設（農業用取水堰）があり、これらの施設に対する水利権の対応が必要となる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設からの処理水については基準以下で放流するが、候補地下流の鰻沢が利水施設（取水堰）と平面交叉しており、処理水の塩川への直接放流等の対応が必要となる可能性がある。</li> <li>施設には 2 重シート等の遮水施設を設置することを前提としているが、候補地から 1km 圏内に、現在も使用している井戸が存在しており、代替上水の確保等の対応が必要となる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設からの処理水については基準以下で放流するが、候補地下流の鰻沢が利水施設（取水堰）と平面交叉しており、処理水の塩川への直接放流等の対応が必要となる可能性がある。</li> <li>施設には 2 重シート等の遮水施設を設置することを前提としているが、候補地から 1km 圏内に、現在も使用している井戸が存在しており、代替上水の確保等の対応が必要となる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸出水処理施設からの処理水は、調整池を経由し、湯沢川に直接放流する計画である。</li> </ul>
(4) 生態系		<ul style="list-style-type: none"> <li>主に谷沿いの広葉樹林と斜面のアカマツ林、ヒノキ植林によって構成される。</li> <li>谷に沿ってコナラを主体とした広葉樹林が存在するが、遷移が進むとともに鬱閉しつつあり、また全体に乾燥していることから、動物の生息場として良好とはいえない。</li> <li>斜面から尾根にかけて分布するアカマツ林及びヒノキ植林は単調で乾燥しており、動物の生息場としての価値はあまり高いとはいえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に谷沿いの広葉樹林と斜面のアカマツ林、カラマツ植林によって構成される。</li> <li>谷に沿って発達する湿潤な広葉樹林は、一般的に動物の生息場として重要な役割を持ち、多くの動物の生息場となっている可能性が高い。</li> <li>カラマツ植林と草地は全体的に単調で乾燥しており、動物の生息場としての価値はあまり高いとはいえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大部分が放棄された雑草群落よりなり、一部にアカマツ林及びカラマツ植林が見られる。</li> <li>雑草群落ではイネ科の低茎草本が優占し、単調な環境である。鳥類では、草地にも生息するホオジロが見られたにすぎず、動物の生息場としての価値は高くない。</li> <li>一部に分布するアカマツ林及びカラマツ植林は単調で乾燥しており、動物の生息場としての価値はあまり高いとはいえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に谷沿いのオニグルミ林、コナラ林（二次林）と谷の北側のアカマツ植林（二次林）、南側の耕作地及び谷上部の草地によって構成される。</li> <li>谷沿いの湿潤なオニグルミ林、コナラ林は、一般的に動物の生息場として重要な生息場として重要な役割を持ち、多くの動物の生息場となっている可能性が高い。</li> <li>谷の北側に広がるアカマツ林と谷上部の草地（ススキ群落、クズ・カナムグラ群落）は全体的に単調で乾燥しており、動物の生息場としての価値はあまり高いとはいえない。また、現計画地南側に広がる耕作地は植生がほとんどなく、生物の生息場としての価値は高くない。</li> </ul>
	【評価】	<p>以上の結果から、動物の生息場としての重要性が明野 2・7・8 の 3 地区の中で 7 地区に次ぐ地区である。</p> <p>本評価は、文献調査及び短期間の現地調査に基づくものであり、今後詳細な調査を行った場合、評価が異なる場合がある。</p>	<p>以上の結果から、動物の生息場としての重要性が明野 2・7・8 の 3 地区の中で最も高い地区である。</p> <p>本評価は、文献調査及び短期間の現地調査に基づくものであり、今後詳細な調査を行った場合、評価が異なる場合がある。</p>	<p>以上の結果から、動物の生息場としての重要性が明野 2・7・8 の 3 地区の中で最も低い地区である。</p> <p>本評価は、文献調査及び短期間の現地調査に基づくものであり、今後詳細な調査を行った場合、評価が異なる場合がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の生息場として良い環境が谷沿いを中心にみられる。</li> </ul>

評価項目		明野 2	明野 7	明野 8	現計画地
(5) 地質状況	地形	<ul style="list-style-type: none"> <li>南北に伸びる火山斜面からなる。(勾配 15 ~ 30°)</li> <li>北東から南西に流下する沢地形をなし、谷幅は約 100m。</li> <li>沢沿いに崖錐緩斜面が分布。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火山麓扇状地に区分される扇状地性の緩斜面からなる。</li> <li>東から西側に流下する沢地形をなし、谷幅は約 100m。</li> <li>沢沿いには崖錐緩斜面と段丘平坦面が分布。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火山麓扇状地に区分される扇状地性の緩斜面からなる。(勾配 10 前後)</li> <li>明瞭な沢地形はなく、緩斜面。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火山麓扇状地に区分される扇状地性の緩斜面からなる。</li> <li>東から西側に流下する沢地形をなし、谷幅は約 100m。</li> <li>沢沿いには崖錐緩斜面が分布。</li> </ul>
	地質	<ul style="list-style-type: none"> <li>第四紀更新世、黒富士火砕流堆積物に相当する礫まじり凝灰質砂が分布。径 10cm の石英安山岩礫を混入。半固結。</li> <li>被覆層は、新期ローム、崖錐堆積物からなる。新期ロームな軟質なローム質粘性土、崖錐堆積物は径数 cm ~ 数 10cm の石英安山岩礫を混入する土砂。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒富士火砕流堆積物に相当する礫まじり凝灰質砂が分布。径 10cm の石英安山岩礫を混入。半固結。</li> <li>被覆層は、土石流堆積物、段丘堆積物、新期ローム、崖錐堆積物からなる。</li> <li>土石流堆積物は巨礫まじり土砂、段丘堆積物は円礫まじり砂礫。</li> <li>新期ロームな軟質なローム質粘性土、崖錐堆積物は径数 cm ~ 数 10cm の石英安山岩礫を混入する土砂。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒富士火砕流堆積物を基盤として土石流堆積物が広く分布。層厚は不明であるが 10 ~ 20m と予想。</li> <li>被覆層は、新期ローム、崖錐堆積物からなる。</li> <li>北側林道脇には地すべり地が確認された。(幅 20m、奥行 50m)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒富士火砕流堆積物に相当する凝灰質粘性土(Kf)、礫まじり凝灰質砂(Kc)、凝灰質シルト(Km)、優白色凝灰質砂(Kd)が分布。半固結。地層はボーリング調査結果から下流側(西側)に緩く傾斜(10°)して分布。</li> <li>被覆層は、新期ローム、表土からなる。</li> <li>新期ロームは軟質なローム質粘性土、表土は軟質な礫まじりシルト。</li> </ul>
	表流水・地下水	<ul style="list-style-type: none"> <li>踏査時(H17.6)には表流水はなし。</li> <li>沢部にはガリ浸食が認められることから大雨時には流下していると予想される。</li> <li>地下水の湧出は認められなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>踏査時(H17.6)には沢上流(EL.950m)から 5 ~ 30L/分の表流水を確認。下流(EL.870m)では伏流し、表流水はなし。</li> <li>下流沢部にはガリ浸食が認められることから大雨時には流下していると予想される。</li> <li>地下水の湧出は認められなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>丘陵地からなり、明瞭な沢はなく、表流水、湧水は確認されなかった。</li> <li>降雨は地下に浸透していると予想。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北側の沢 769m 付近に湧水。表流水は認められるが下流域では伏流。</li> <li>地下水位は全体に低く、河床標高(深度 15 ~ 25m)にある。</li> </ul>
	活断層	<ul style="list-style-type: none"> <li>南西 7km に確実度 <sup>つぶらい</sup> の下円井断層が NW-SE 方向に延びるが、当地区に連続する方向ではない。</li> <li>北西 5km に確実度 <sup>つぶらい</sup> の断層が NE-SE 方向に延びるが、当地区に連続する方向ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西方 10km に確実度 <sup>つぶらい</sup> の下円井断層が NW-SE 方向に延びるが、当地区に連続する方向ではない。</li> <li>北西 2km に確実度 <sup>つぶらい</sup> の断層が NE-SE 方向に延びるが、当地区に連続する方向ではない。</li> </ul>	同 左	同 左  既往の地質踏査では調査地周辺に断層は認められていない。
	【評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>処分場の基礎地盤は、締まった火砕流堆積物からなり、所要の支持力が期待でき盛立時の不等沈下の危険性は少なく、掘削斜面の安定性は確保できる。</li> <li>火砕流堆積物は締まり、割れ目が少ないことから難透水性地盤と予想される。</li> <li>流域には、最近、土石流が発生した荒れた状況にないことから、大きな土石流の可能性は極めて低いと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>処分場の基礎地盤は、河床から左岸部は締まった火砕流堆積物、右岸部は巨礫まじりの土石流堆積物からなる。</li> <li>火砕流堆積物は締まった地盤からなるが、土石流堆積物は巨礫の周辺に軟質な土砂で充填され、不均質で不等沈下が懸念される。</li> <li>土石流堆積物は未固結で軟らかい土砂を挟むことから透水性は高いと予想される。</li> <li>右岸部には、かつて土石流により堆積した巨礫まじり土砂が分布する。沢部には最近、土石流が発生した状況はないが、大雨時には多少土砂が流出する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>処分場の基礎地盤は、全面は巨礫まじりの土石流堆積物からなる。</li> <li>土石流堆積物は巨礫の周辺に軟質な土砂で充填され、不均質で不等沈下が懸念される。</li> <li>土石流堆積物は未固結で軟らかい土砂を挟むことから透水性は高いと予想される。</li> <li>かつて土石流により堆積した巨礫まじり土砂が厚く分布する。最近、土石流が発生した状況はないが、大雨時には多少、土砂が流出する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 候補地の内、最も調査精度が高く、基礎地盤、地下水の状況が判明している。</li> <li>処分場の基礎地盤は、締まった火砕流堆積物からなり、所要の支持力が期待でき盛立時の不等沈下の危険性は少なく、掘削斜面の安定性は確保できる。</li> <li>火砕流堆積物は締まり、割れ目が少ないことから難透水性地盤である。</li> <li>流域には、最近、土石流が発生した荒れた状況は見られないことから、大きな土石流の可能性は極めて低いと考えられる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地質条件の良い地点である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地質条件が比較的良好な地点である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地質条件の低い地点である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地質条件の良い地点である。</li> </ul>	

評価項目	明野 2	明野 7	明野 8	現計画地	
(6)施設の概要及び機能性	<p>位置的特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>候補地は北杜市明野町小笠原に位置する。</li> <li>標高は、560～640m付近。</li> </ul>	<p>候補地は北杜市明野町浅尾に位置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標高は、860～920m付近。</li> </ul>	<p>候補地は北杜市明野町浅尾に位置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標高は、870～930m付近。</li> </ul>	<p>候補地は北杜市明野町浅尾に位置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標高は、760～830m付近。</li> </ul>	
	<p>施設規模</p> <p>本体面積 (埋立面積)</p> <p>覆土仮置場面積</p> <p>埋立容量 (廃棄物容量)</p> <p>浸出水処理施設能力</p>	<p>9.1ha (3.5ha)</p> <p>2.4ha</p> <p>408,000m<sup>3</sup> (304,000m<sup>3</sup>)</p> <p>120m<sup>3</sup>/日</p>	<p>8.0ha (3.5ha)</p> <p>1.8ha</p> <p>408,000m<sup>3</sup> (304,000m<sup>3</sup>)</p> <p>120m<sup>3</sup>/日</p>	<p>8.3ha (3.7ha)</p> <p>1.8ha</p> <p>408,000m<sup>3</sup> (304,000m<sup>3</sup>)</p> <p>120m<sup>3</sup>/日</p>	<p>8.7ha (3.3ha)</p> <p>4.4ha</p> <p>408,000m<sup>3</sup> (304,000m<sup>3</sup>)</p> <p>120m<sup>3</sup>/日</p>
	<p>処理水放流先</p>	<p>現在、計画地下流の沢筋は河川の形態を成しておらず、今後関係機関との調整如何によっては河川の形態を成している正楽寺川等に放流せざるを得なくなる可能性がある。</p> <p>なお、正楽寺川に放流する場合、放流管(940m)の布設が必要となるとともに、関係機関と農業用取水についての調整が必要となる。</p>	<p>現在、計画地下流の沢筋は河川の形態を成しておらず、今後関係機関との調整如何によっては河川の形態を成している鰻沢等に放流せざるを得なくなる可能性がある。</p> <p>なお、鰻沢に放流する場合、放流管(700m)の布設が必要となる。また、鰻沢が平面交叉する朝穂堰では、農業用取水が行われている実態があるため、関係機関との調整によっては、塩川への直接放流が必要となる。</p>	<p>鰻沢に放流する場合、放流管(400m)必要となる。また、鰻沢が平面交叉する朝穂堰では、農業用取水が行われている実態があるため、関係機関との調整によっては、塩川への直接放流が必要となる。</p>	<p>浸出水処理施設からの処理水は、調整池を経由し、湯沢川に直接放流する計画である。</p>
	<p>搬入道路</p>	<p>茅ヶ岳広域農道大穴隧道北側入り口を起点とし、町道 0327 号線を南に、道なりに進み、一旦葎崎市側に出てから、北杜市に戻り、最終処分場候補地の上流側から搬入する(約 1.6km)。</p> <p>町道 0327 号線は、幅員が 3.5m のため、起点から 1.2km の地点までを 2 車線(W=7.0m)に拡幅する。1.2km の地点から最終処分場候補地までの 400m は、道路を新設する。</p> <p>搬入道路の勾配は最大 10%である。</p>	<p>茅ヶ岳広域農道を起点とし、町道 0131 号線を東に進み、最終処分場候補地下流側から搬入する(約 1.4km)。</p> <p>町道 0131 号線は、幅員が概ね 4.5m のため、起点から 1.4km までの区間を 2 車線(W=7.0m)に拡幅する。</p> <p>搬入道路の勾配は最大 12%である。</p>	<p>茅ヶ岳広域農道を起点とし、町道 0131 号線を東に進み、最終処分場下流側から搬入する(約 1.2km)。</p> <p>町道 0131 号線は、幅員が概ね 4.5m のため、起点から 1.2km までの区間を 2 車線(W=7.0m)に拡幅する。</p> <p>搬入道路の勾配は最大 12%である。</p>	<p>茅ヶ岳広域農道から畑総幹線新道より処分場下流側から搬入。</p>
	<p>施設配置上の特徴</p>	<p>覆土仮置場の配置は周辺の地形が急峻なため確保が難しく、公道を挟み、最終処分場本体と離して設置せざるを得ない。そのために覆土仮置場のための独立した調整池が必要となる。</p> <p>雨水の背後流入域がほとんどなく、調整池が小さい(流域:9.4ha 調整池容量 3,000m<sup>3</sup>)。</p> <p>埋立りの形状が細長いため、埋立作業が難しい。</p>	<p>覆土仮置場の配置が容易である。</p> <p>雨水の背後流入域が 160ha あり、調整池が大きく、かつ付替水路が必要である。(流域:160.0ha 調整池容量 21,000m<sup>3</sup>)。</p>	<p>覆土仮置場の配置が容易である。</p> <p>雨水の背後流入域がなく、調整池が小さい(流域:11.2ha 調整池容量 3,000m<sup>3</sup>)。調整池は掘込み式となり、工事費が安い。</p>	<p>5,250m<sup>3</sup>の雨水調整池を設置する。</p> <p>32.6haの背後流入域があるため、付替水路を設置する。</p>
	<p>造成計画</p>	<p>本候補地は北東から南西に流下する沢地形をなしており、それを利用して埋立てを行う。</p>	<p>本候補地は東から西側に流下する沢地形をなしており、それを利用して埋立てを行う。</p>	<p>本候補地は、緩やかな傾斜地で、沢地形をなしていないため、掘込み式の処分場とする。</p>	<p>計画地は、東から西側に流下する沢地形をなしており、それを利用して埋立てを行う。</p>
	<p>【評価】</p>	<p>所定の廃棄物量を埋立てることが可能である。</p> <p>搬入道路の整備が必要である。</p> <p>覆土仮置場を同一敷地内に配置できず、施設配置は相対的に劣る。</p>	<p>所定の廃棄物量を埋立てることが可能である。</p> <p>搬入道路の整備が必要である。</p> <p>施設配置は相対的に良いが、大規模な雨水調整池が必要となる。</p>	<p>所定の廃棄物量を埋立てることが可能である。</p> <p>搬入道路の整備が必要である。</p> <p>施設配置は相対的に良い。</p>	<p>所定の廃棄物量を埋立てることが可能である。</p>

評価項目		明野 2	明野 7	明野 8	現計画地
(7) 地盤の安定性	不等沈下	・ 基礎地盤は、締まった火砕流堆積物からなり、所要の支持力が期待できると考えられる。	・ 火砕流堆積物は締まった地盤からなるが、土石流堆積物は巨礫の周辺が軟質な土砂で充填され、不均質で不等沈下が懸念される。	・ 土石流堆積物は巨礫の周辺が軟質な土砂で充填され、不均質で不等沈下が懸念される。	・ 基礎地盤は、締まった火砕流堆積物からなり、所要の支持力が期待できると考えられる。
	斜面安定性	・ 基礎地盤は、締まった火砕流堆積物からなり、掘削斜面の安定性は確保できると考えられる。	・ 土石流堆積物は未固結で軟らかい土砂を挟むことから、斜面安定性は低いと考えられる。	・ 土石流堆積物は未固結で軟らかい土砂を挟むことから、斜面安定性は低いと考えられる。	・ 基礎地盤は、締まった火砕流堆積物からなり、掘削斜面の安定性は確保できると考えられる。
	土石流の可能性	・ 大きな土石流の可能性は極めて低いと考えられる。	・ 本候補地内は砂防指定地ではないものの、右岸部には、かつて土石流により堆積した巨礫まじり土砂が分布する。沢部には最近、土石流が発生した状況はないが、大雨時には多少土砂が流出する可能性がある。	・ 本候補地内は砂防指定地ではないものの、かつて土石流により堆積した巨礫まじり土砂が厚く分布する。最近、土石流が発生した状況はないが、大雨時には多少、土砂が流出する可能性がある。	・ 大きな土石流の可能性は極めて低いと考えられる。
	【評価】	・ 地盤の安定性は高いと評価できる。	・ 不等沈下及び土石流の発生が懸念され、地盤の安定性は低いと考えられる。	・ 不等沈下及び土石流の発生が懸念され、地盤の安定性は低いと考えられる。	・ 地盤の安定性は高いと評価できる。
(8) 施工性	地形条件	・ 候補地は沢地形のため、足場の設置が行いにくい等、地形条件が悪い。	・ 候補地は沢地形のため、足場の設置が行いにくい等、地形条件が悪い。	・ 候補地は、緩斜面のため、足場の設置が行いやすい等、地形条件が良い。	・ 候補地は沢地形のため、足場の設置が行いにくい等、地形条件が悪い。
	土工事	・ 行政界及び既存道路による制約条件があるため沢地形が長細く、埋立容量を確保するためには掘削土工量(324,000m <sup>3</sup> )が多くなる。	・ 沢地形を効率的に活用でき、掘削土工量(144,000m <sup>3</sup> )が少ない。	・ 緩やかな傾斜地であることから埋立容量を確保するためには掘削土工量(369,000m <sup>3</sup> )が多くなる。	・ 352,700m <sup>3</sup> と掘削土工量は多い。
	候補地内の既存構造物	・ 下流部から約150m上流側に東京電力の高圧線(江草線)が通過しており、右岸及び左岸の尾根に鉄塔がある。鉄塔の高さは22mであるが、電線から地上部までの最も近接する箇所の高さについては、今後詳細な検討を行う場合、確認する必要がある。また、東京電力との調整が必要である。	・ 特になし。	・ 廃屋が2軒あるが、特に影響なし。	・ 特になし。
	工事中道路と作業条件	・ 工事中道路として、既存の道路を使用することは難しく、工事当初に搬入道路の整備を行う必要がある。また、資材置場等を整備するため、伐採・準備工が必要となる。	・ 現況の道路を工事中道路として使用できる。 ・ 資材置場等は、候補地内の空き地に確保可能である。	・ 現況の道路を工事中道路として使用できる。 ・ 資材置場等は、候補地内の空き地に確保可能である。	・ 特になし。
	【評価】	・ 掘削土工量が多く、候補地内の既存構造物についても留意する必要がある。 ・ 工事中道路の整備が必要で、また資材置場等の確保が難しい。	・ 掘削土工量は少ないが、巨礫まじり土砂に留意する必要がある。	・ 掘削土工量が多く、巨礫まじり土砂に留意する必要がある。	・ 掘削土工量が多く、残土搬出に留意する必要があるが、その他の条件は特になし。
(9) 跡地利用性	埋立後の平場面積	平場4ヶ所 合計 2.41ha (0.13ha 1.11ha 0.55ha 0.62ha)	平場3ヶ所 合計 2.21ha (0.34ha 0.96ha 0.91ha)	平場3ヶ所 合計 1.85ha (0.26ha 0.72ha 0.87ha)	平場3ヶ所合計 2.24ha (0.15ha 0.99ha 1.10ha)
	【評価】	・ 周辺は山林であり、有効な跡地利用方法がない。	・ 近隣にはレクリエーション施設があり、複合的な跡地利用の可能性がある。	・ 近隣にはレクリエーション施設があり、複合的な跡地利用の可能性がある。	・ 近隣にはレクリエーション施設があり、複合的な跡地利用の可能性がある。

評価項目		明野 2	明野 7	明野 8	現計画地	
(10) 経済性	概算工事費 (用地費は含まず)	最終処分場 (m <sup>3</sup> 単価)	約 54.7 億円 (約 18,000 円)	約 51.9 億円 (約 17,100 円)	約 56.0 億円 (約 18,400 円)	約 56.5 億円 (約 18,600 円)
		搬入道路 : 新設・拡幅	約 7.7 億円	約 1.5 億円	約 1.3 億円	-
		合 計 (m <sup>3</sup> 単価)	約 62.4 億円 (約 20,600 円)	約 53.4 億円 (約 17,600 円)	約 57.3 億円 (約 18,900 円)	約 56.5 億円 (約 18,600 円)
	他の候補地と比較して特異な 工事費	(伐採、整地等着工時の整備費用) ・ 伐採・準備工で約 0.2 億円の費用が必要となる。	(巨礫の小割) ・ 土石流堆積物中の巨礫混入率を 3%と仮定すると、掘削に約 1.7 億円の費用が必要となる。 (土石流堆積物の置換) ・ 埋立面積の 1/2 を、厚さ 3m の良質土と置き換えるものと仮定すると、約 7.0 億円の費用が必要となる。	(巨礫の小割) ・ 土石流堆積物中の巨礫混入率を 3%と仮定すると、掘削に約 4.4 億円の費用が必要となる。 (土石流堆積物の置換) ・ 埋立面積全面を、厚さ 3m の良質土と置き換えるものと仮定すると、約 14.7 億円の費用が必要となる。	・ 特になし。	
	関係機関等との協議によって 発生する可能性のある工事費	(処理水放流管) ・ 正楽寺川に処理水を放流する場合(延長 940m) 約 0.3 億円の費用が必要となる。	(処理水放流管) ・ 鰻沢に処理水を放流する場合(延長 700m) 約 0.2 億円の費用が必要となる。また、塩川に処理水を放流する場合(延長 4.5km) 約 1.2 億円の費用が必要となる。	(処理水放流管) ・ 鰻沢に処理水を放流する場合(延長 400m) 約 0.1 億円の費用が必要となる。塩川に処理水を放流する場合(延長 4.23km) 約 1.2 億円の費用が必要となる。	・ 特になし。	
	-1 推定総工事費 ( + ) (カッコ内は m <sup>3</sup> 単価)	約 62.6 億円 (20,600 円)	約 62.1 億円 (20,500 円)	約 76.4 億円 (25,200 円)	約 56.5 億円 (約 18,600 円)	
-2 推定総工事費 ( + + ) (カッコ内は m <sup>3</sup> 単価)	約 62.9 億円 (20,700 円)	鰻沢に放流する場合 約 62.3 億円 (20,500 円) 塩川に放流する場合 約 63.3 億円 (20,900 円)	鰻沢に放流する場合 約 76.5 億円 (25,200 円) 塩川に放流する場合 約 77.6 億円 (25,600 円)	約 56.5 億円 (約 18,600 円)		

工事費の算定にあたり、処分場本体、覆土仮置場、搬入道路等の用地の取得若しくは借用に係る費用については、不確定要素があることから考慮していない。